

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第67号

発行日 : 平成27年 11月 1日

発行 : 伊丹市文化財ボランティアの会

発行所 : 伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

古代ロマン溢れる

国史跡 伊丹廃寺を歩こう

市内文化財めぐり歴史ウォーキング

伊丹市には二つの国の史跡があります。その一つが「伊丹廃寺跡」です。今から 1300 年以上前の白鳳時代に、猪名川を見下ろす高台に創建された古代寺院です。法隆寺式の伽藍配置の立派な大寺院であったと語り継がれています。

9月26日(金)、伊丹廃寺跡をめざして、11名の一般参加者と共に総勢 28名が約 2.5 kmを歩きました。



伊丹廃寺跡

[コース] (出発)市役所～市立博物館～
～昆陽池～たんたん小道～瑞ヶ池～緑ヶ
丘公園～伊丹廃寺跡(解散)

まず市立博物館に立ち寄り、博物館長よ

り伊丹廃寺の跡地から出土した展示品の前で説明を受けました。伊丹廃寺発見のいきさつ、基壇の積み方や階段の位置など、伊丹廃寺がほかに類をみない様式の寺院であったことなど、わかりやすく説明していただきました。

そのあと昆陽池を通り、たんたん小道の小川沿いを歩き、伊丹廃寺跡へと向かいました。その道すがら、いにしえの歌人が詠んだ歌碑の説明がありました。



文学碑の説明

そのひとつ、昆陽池にある上島鬼貫の句をご紹介します。

上島鬼貫

月なくて 昼は霞むや こやの池

(句の意味)時は仲秋。夜ではないので(名)月が出ていないが、昆陽池は近辺にまれな大池であるから、昼もあたり一面おぼろに霞んでいて、周囲も定かでないほどである。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いいたします。

(☎:072-784-8090)

修験者の開祖 役小角

《研究発表》 足立 茂夫



役小角(えんのおづぬ)は、一般的に役行者(えんのぎょうじゃ)とされている。ある説では生没年不詳と伝わっているが、実在した人物であることは間違いないところであり、

後に行基、空海が修行している。

役行者の資料はなにぶんにも少なく、「続日本紀」に数行が書き記されているだけで、伝説・伝承の類いになっている。時代が下るに従って誇張・増幅されている。後に国宝「日本霊異記」(正しくは日本現報善悪霊異記)に少し記述があるが、大元は「続日本紀」にある。

「続日本紀」の記述

(原文)丁丑。役君小角流干伊豆島。初小角住於葛木山。以咒術稱。外從五位下韓國連廣足師焉。後害其能。讒以妖惑。故配遠處。世相傳云。小角能役使鬼神。汲水採薪。若不用命。即以咒縛之。

(大意)文武天皇3年5月24日、役君小角を伊豆大島に配流した。そもそも小角は葛城山に住み、呪術で称賛されていた。後に外從五位下の韓国連廣足が師と仰いでいたほどであった。ところがその後、ある人が彼の能力を妬み、妖惑のかどで讒言した。それ故彼を遠方に配流した。「小角は鬼神を使役することができ、水を汲ませたり、薪を採らせたりした。もし鬼神が彼の命令に従わなければ、彼らを呪縛した。」という。

「日本霊異記」の記述

奈良時代の後期から平安初期に生きた僧、景戒(けいかい・ぎょうかい)がまとめたとされる我が国最古の仏教説話集である。上巻に次のような行者の記事がある。

「孔雀王の呪法を修持して異しき験力を得、以て現に仙と作りて天を飛びし縁第二十八」(くじゃくおうのじゅほうをしゅちしてめずらしきげんりきをえ、もってげんにせんとなりててんをとびしえにし 第二十八)

役小角のいわれ

舒明天皇6年(634)1月1日～大宝元年6月7日 飛鳥時代から奈良時代前期の呪者である。奈良県御所市に誕生する。大阪府箕面市箕面山天上ヶ岳にて昇天する。享年68歳。父親が役人で管掌の立場にあり、大角と言われていたその子供とのことで、因みに小角は僧侶ではなく優婆塞(うばそく)である。同時代を生きた行基は、存命中より菩薩号を賜っていた。後に菩薩号を下賜された方はおられるが、入寂されてからのこと。唯一人行基だけ菩薩は本物である。小角とは34歳違いである行基は、天智元年(668)に誕生し、749年2月27日に入寂。享年82歳。

武相荘を訪ねて

町田市指定史跡 白洲次郎・正子旧宅

松田 孝雄

太平洋戦争最中から正子の没まで、白洲夫妻の終の棲家となった武相荘(ぶあいそう)は東京都町田市にあり、現在一般公開されている。武相荘は武蔵と相模の国の境界付近にあることから、“不愛想”をもじっての命名らしい。母屋は多摩地域の養蚕農家の様式を伝える重厚な茅葺屋根で、明治初期の建築とみられ、町田市史跡に指定されている。

6月末に横浜に所用があり、これを機会に武相荘を訪ねてみた。



武相荘の母屋

昭和5年(1930)、敷地面積4万坪といわれる父(文平)の屋敷があった伊丹町に婚姻届を提出した。白洲次郎(1902~1985)正子(1910~1998)夫妻は、昭和14年頃まで伊丹の屋敷を本拠としていたようである。

この間、次郎は海外に赴くことが多く、駐イギリス特命全権大使であった吉田茂の面識を得て、イギリス大使館を自らの定宿とするまで出入りしていた。しかし帰国後の昭和15年(1940)全ての事業から手を引き、東京都南多摩郡鶴川村能ヶ谷の古い農家を購入して武相荘と名付け、カントリー・ジェントルマンを自称して隠棲生活を始めた。

戦争の最中、兵役・徴用などの世事とは無縁に夫婦で趣味三昧の暮らしが出来たのは、親から譲り受けた財力と薩摩、伯爵家出身の妻正子の縁戚によるところが大きかったのだろう。

武相荘は南斜面に畑を持つ当時築数十年ほどの茅葺きの養蚕農家である。農家の作業場として土間があり、畳の間が田の字形に並ぶ間取りである。白洲夫妻はこれに手を加えて、好みの住まいに仕立てた。土間には床を張って床暖房を備え、英国風に暖炉をしつらえて居間兼応接間にしている。

NHK 番組で紹介された正子の書斎襖は、桂離宮、御所などの襖も手がけた京唐紙の老舗「唐長」伝統の文様「枝桜」である。薄暗い書斎で唐紙の雲母が淡く反射していた。手先が器用で木工を得意とした次郎は、さま

ざまな日用品を手作りした。彼の作品は現在館内のあちこちにさりげなく配置されている。

別棟の倉庫1階は次郎が使用した、当時としては珍しい耕運機などの農機具が並べてある。2階はカントリー風のパブにしつらえ、来客をもてなした。

戦後、吉田茂の懐刀としての次郎の活躍は当地を拠点に始まるが、これについては割愛する。

〔ガイド豆知識 第6回〕

酒蔵通り（伊丹市景観形成道路）

JR伊丹駅から西に延びる酒蔵通りは、近世初期より江戸積み酒造業で栄えた伊丹の町の趣を色濃く残す通りです。景観形成条例に基づき、瓦葺きの切妻屋根で平入りの建物が立ち並びます。酒造りの町を特徴づける景観づくりがなされていて、その一つが酒造りの時に使われていた「かき桶」をモチーフにしたボラード(車止め)です。

酒蔵通りは、平成20年度の都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」を受賞しています。伊丹の町をご案内するときには、ちょっと街並み自慢をしてみたいはいかがでしょうか。

(藤原 記)



かき桶

車止め

＜行基会資料 4＞

行基の布教活動

1 修行時代

行基は15歳で出家・仏門に入り、24歳で具足受戒する。受戒後は法興寺や薬師寺で法相大乘の利他行、菩薩行を修めた。法興寺では法相宗の初伝者で菩薩行の先覚者道昭の影響を受けたと考えられる。この間瑜伽(ヨーガ)唯識論を了り、37歳まで山林修行に励んだ。三階教に触れ、38歳から福田菩薩行の実践に向けて集落での布教・伝道活動に入る。

2 初期の布教活動

慶雲2年(705年)38歳のとき須恵器の生産地、大鳥郡に大修恵院を建てた。これは49院の1番目である。ここで劣悪な状況で働く人々のために安らぎと治療の場を提供したのである。

次に平城京造営で住处を失う者、工事現場から離れ行き場を失った流浪役民の救済に乗り出した。これらの者を収容するため造営現場の近くにいくつかの院や布施屋を建てた。救いを求めて集まった者を総て私度僧として出家させ、集団的托鉢・乞食をさせて浄財の確保に努めた。また造営工事に従事するために都に各地から役人が集められ、これらの中にも行基に帰依する者も現れた。秦氏系の寺史乙丸が自宅を寄進した。行基はここに49院の1つ菅原寺(喜光寺)を建てた。やがて朝廷は仏教はあくまで国家が統制するものとして民間布教を進める行基を僧尼令違反者として名指しで禁圧し、特に都での民間布教を抑圧するようになり、行基は都周辺での活動を断念せざるをえなくなった。

3 その後の布教活動

都での布教活動を断念した行基は、畿内農村での布教活動に方向転換した。おりしも養老7年(723年)3代に限り私有地を認める「三世一身法」が制定され、行基は地方豪族と

結び付いて布教のための諸院の建立と灌漑用水確保のための池溝開発造立を並行して推し進めていった。諸院は池溝の管理拠点の役割を果たした。

行基の活動は朝廷との摩擦を避けるため都を離れ河内から摂津、山城地域へと急速に拡大していった。やがて地方豪族の利益と結び付いた行基集団の布教・池溝開発活動は朝廷とは地方豪族による開墾奨励の見地から対立するものでなくなり、行基は畿内諸国に布教範囲を拡大し49院他多くの行基ゆかりの寺院が建立されることとなった。行基の布教活動の母胎は仏教信仰を基に知識結といわれる集団である。

知識集団は指導的な僧尼と在俗信者で構成され、財物の布施、労力の提供を通して結縁した。

渡来系氏族の行基集団は渡来系の土師氏や秦氏など須恵器製作や土木開発技術に長じた技術集団を取り込むことで大きな成果を上げることができた。但し行基の寺院建立と並行する社会事業は天平12年(740年)の泉橋院と泉寺布施屋・泉大橋で終り、これ以降は寺院のみの建立となっている。行基集団が大仏造立に注力を注ぎ、また行基の高齢化により社会事業への取り組みが難しくなったと考えられる。

4 布教の内容

古代仏教の説話集『日本霊異記』中巻第29に「元興寺の村で、法会を催して行基大徳をお招きし、7日間仏法を説いた。僧も俗人もみな集まって法を聞いた」とあるがそのときの説法内容は伝わっていない。『日本霊異記』の説話や行基の修行体験から「過去・現在・未来三世に亘る善悪因果報応」を分り易く説明し、知識集団に参加を勧め、寺院の建立・社会事業への協力を呼びかけたものと思われる。『続日本紀』に「都鄙(とひ)を周遊して衆生を教化す。道俗化を慕ひて追従する者、動(ややも)すれば千を以て数ふ。行くと

ころ、和尚来るを聞けば、巷に居る人なく、争い来りて礼拝す。器に随ひて誘導し、咸(みな)善に趣かしむ。また親(みず)から弟子を率いて諸の要害の処に橋を造り陂(つつみ)を築く。聞き見ることの及ぶところ、咸来りて功を加え不日にして成る。百姓今に至るまでその利を蒙れり。・・・和尚靈異神驗類に触れて多し。時の人号けて行基菩薩と曰ふ。」とあり、行基の布教内容を窺いしることができる。

同じく『日本靈異記』に行基に因んだ説話が七話載っている。この説話内容により行基の布教内容を推し量ることができる。

- (1) 蟹の恩返しの話し 2 話 熱心に信心し、善行を行えば報われる話し。
- (2) 生き返る話し 2 話 善行を積めば極楽浄土へ行き、悪行すれば地獄へ行く話し。行基が智慧の 仏文殊菩薩の化身であることの話し
- (3) 行基の神通力の話し 2 話 女が髪に猪の油を塗っていることや女のこどもに女の前世の悪業が取りついていることを見破る話し。
- (4) 善行の方便として悪業を見て道を悟る話し。

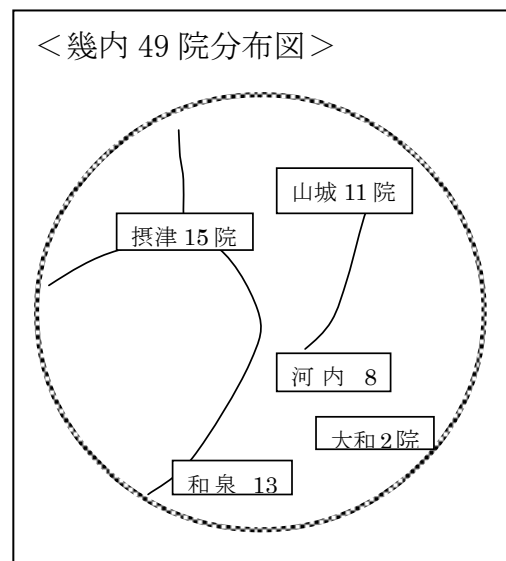
5 行基ゆかりの寺院と畿内 49 院

行基建立や行基造願の伝承を持つ寺は東北から九州にかけて 1400 寺以上あるとされている。終生畿内から出なかったとされる行基に全国に多くの伝承があるのは、行基が民衆に時空を超えて長くひろく崇められて来た証である。ちなみに伝承のある寺は兵庫県で122寺、大阪府で99寺、神奈川県で92寺、京都府で75寺、三重県70寺(『行基事典』)となっている。伊丹は10寺を数える。畿内に多く分布しているのは行基が活動した場所であり、当然のことであるが関東地方にも多く分布している。これは坂東三十三札所のような寺院が開創者に行基としていることによる。四国八十八札所の寺院の中にも行基を開創者としている寺院がある。

『続日本紀』の行基伝に「時の人号けて行基菩薩と曰ふ。留止する処にみな道場を建つ。その畿内に凡そ卅九処」とあり、『行基年譜』には49院の建立時期と建立場所が列挙されている。院は民衆のための寺院であり、修行の道場でもあった。寺院を私的に建てることは朝廷から禁止されていたので垣根をめぐらした建物という意味で院と呼んだのであろう。

別表のとおり49院を建立順・国別にしてみた。初期の段階では生国・和泉、大和に集中しているが、禁圧を受けた後は朝廷との対立を回避するため、摂津から山城へ方向転換したことが読み取れる。

特筆すべきは大野寺と山崎院で大量の人名瓦が発掘されていることである。49院が知識結により多数の人々の協力によって建てられたことが分かる。また崑陽施院とあるように院は布教の場であるとともに困窮者の救済施設でもあったことが分かる。同じ場所に院と尼院を建てており男女の風紀を戒めた僧尼令を意識したと考えられる。



〔町の小さな文化財 第7回〕

伊丹町町村境の石碑

鈴原町4丁目バス停附近の植込みに伊丹町町村境の石碑が立っている。なぜこの場所に町村境を示す石碑があるのだろうか。



町村境を示す石碑

現在の鈴原町1～4丁目は当時伊丹町大字伊丹であったが、5～7丁目と8丁目の一部は旧稲野村大字昆陽に属していたので、その境界に立てられていたのである。

町村制に基づいて伊丹町が発足したのは明治22年(1889年)、したがって石碑が建てられたのはそれ以降である。

それから51年後の昭和15年(1940年)伊丹町は稲野村と合併して市に昇格する。これにより町村境の石碑は無用になるが、75年後の今日まで残されたのである。

昭和15年(1940年)は皇紀2600年にあたり、国を挙げて奉祝行事が行われた。ときの総理大臣は伊丹との所縁のある近衛家の文麿公であり、伊丹町としてこの佳き年に市制を施行して、一層祝賀気分を盛り上げたかったのだろう。

伊丹市はその後昭和22年(1947年)に神津村、昭和30年(1955年)に旧長尾村の荻野、荒牧、鴻池、大野新田地区を編入して現在の市域に至っている。

<松田 記>

有岡城跡コースを歩く

第1回 阪急・阪神沿線観光あるき

10月24日(土)、爽やかな秋晴れに恵まれ、今年も阪急・阪神沿線観光あるきが始まりました。37名の参加者が、2班に別れて阪急伊丹駅をスタートしました。早朝の集合時間にもかかわらず、市外からの参加者が8割で遠くは明石や門真からの参加がありました。

この日は『伊丹ボランティアまつり』や『伊丹まちなかバル』などが開催されており、大勢の人達で賑わっていました。

参加者からは「伊丹は駅前しか知らなかったが、今日歩いてみて歴史的にも興味深い、とても良い町ですね。」「次回はお酒の試飲ができるときにぜひ参加したいね。」などの感想をいただきました。解散後はちょうど昼時、こんな質問がありました。「どこか旨くて値段の手ごろな寿司屋はないですか？ほら、あの茶色の暖簾のかかっていた店はどうですか？」……これからはグルメの勉強もしなければいけませんね。

『観光あるき』とはウォーキングイベントを通じて地域の魅力を再発見する企画です。伊丹市は『歴史と文化、花と緑に彩られた自然豊かなまち～清酒発祥の地・伊丹を訪ねて～』と題して参加者を募ります。

今後も伊丹の魅力いっぱいコースが予定されています。

《2015秋～2016春》

第2回 3月6日(日)

。御願塚古墳・昆陽池コース

第3回 4月3日(日)

。伊丹緑道コース

第4回 5月14日(土)

。荒牧バラ公園コース

4月3日には《さくら❀》、5月14日には《春バラ🌺》が見頃になっているでしょう。

どうぞ、『わがまち伊丹』にお越しく下さい。

(古結 記)

西口征子さんを偲ぶ

保理江 丈夫

突然の訃報に接したのは9月28日の午後で、17日に亡くなられたとの事でした。

思えば20年前に火曜会に参加し、ともに活動してきた仲間なので、積み重ねてきた思い出には尽きぬものがあります。西口さんは会発足以来、“歴史上人物”グループや“村の歴史”の分科会、亡くなるまでは“古文書の会”にと熱心な勉強家でした。会の活動基盤が曜日別になってからは、水曜グループの中で常に積極的に参加活動され、その小柄な身にリュックを背負った姿は今も強く印象に残っています。

10月15日、妹さんの御心遣いで“お別れ会”が自宅で開かれました。お坊さんの読経の中で、穏やかな笑みを浮かべている写真を見ていて、ようやくお別れが出来ました。歴史が何より好きだった西口さんには、まだまだ会で活躍してほしかったという思いが一杯ですが、今は只々安らかなご冥福を祈るばかりです。

活動記録（8月～10月）

定例会 ・8/11(火) ・9/8(火) ・10/13(火)

案内ガイド ・8/16(日)Bコース(伊丹市友会) ・9/9(水)Aコース(箕面観光ボランティア 箕面市) ・9/16(水)Aコース(枚方市商店連絡会 枚方市) ・9/17(木)郷町館(中央電気倶楽部 大阪市) ・9/24(木)Eコース(川西古代学友の会 川西市) ・9/28(月)Aコース(高大スポーツ科 神戸市) ・10/8(木)Aコース(愛前会 神戸市) ・Aコース(アキレス西日本親交会 河内長野市) ・10/12(月)Bコース(伊丹スワンクラブ) ・10/16(金)Aコース(人間探訪の旅 宝塚市) ・10/20(火)Aコース(新日本婦人の会 宝塚市) ・10/22(木)

編集後記

ついこの間まで、異常高温に喘いでいたのに、もうインフルエンザの話題が報道されています。お互い若くないので、季節の変わり目には健康に気を付けましょう。編集を交代して初めての号をお届けします。

(M・Y)

郷町館(県芸術文化協会 神戸市) ・10/24(土)Aコース(阪急・阪神沿線観光町歩き) ・10/25(日)Aコース(昭和36年北中卒業同窓会 伊丹市)

歴史ロマン体験学習支援

- ・8/1(土) 石器をつくる
- ・9/5(土) ろくろを使う
- ・10/24(土) 土器をつくる



11/7(土)に野焼きをします。どんな作品ができるかな?

有岡城跡の清掃 ・8/25(火) ・9/22(火) ・10/27(火)



清掃風景

今後の予定（11月～1月）

定例会 ・11/10(火) ・12/8(火) ・1/19(火) 新年会

案内ガイド 11/5(木)Aコース(大阪府北部コミュニティカレッジ 大阪市) 11/5(木)Aコース(伊丹市老人クラブ連合会) ・11/7(土)Aコース(大阪府市町村年金者連盟 大阪市) ・11/13(金)Eコース(笹原ブロック老人クラブ 伊丹市) ・Aコース(コスモ石油OB会 川西市) ・11/15(日)Aコース(たつみ会 高槻市) ・11/17(火)Aコース(退職公務員連盟 宝塚市)

歴史ロマン体験学習支援 ・11/7(土) 野焼きをしよう

・2/5(土) ペン立て ・2/23(土) コースター

有岡城跡の清掃 11/21(土) ・12/22(火) ・1/26(火)